

議案に関する委員会審議

各委員会では、委員会に付託された議案を審議しました。



【議案第3号】令和8年度鯖江市一般会計予算（学校給食支援事業費 2億8,097万8千円）

学校給食費無償化を踏まえた学校給食支援事業

問 公平性の観点から、アレルギー等により弁当を持参している児童や、学校に来ることができない児童については、どのように支援するのか。

答 弁当を持参している児童や、やむを得ない事情で登校できない児童についても、学校給食費無償化と同等の補助を行う方針である。

問 中学校の給食に対しては、どのような支援を行うのか。

答 物価高騰や人件費上昇により給食費の増加が見込まれるが、保護者負担額を令和7年度と同額に据え置くことで、保護者の負担軽減を図る。

【議案第3号】令和8年度鯖江市一般会計予算（さばえまちなか芸術祭事業 500万円）

市民参加型芸術祭による交流と魅力発信

説明 西山公園を核に、野外アート作品の展示を中心とした、誰もが参加し楽しめる芸術祭を開催する。国内外で活躍する芸術家や市内の小中学校・高校、文化団体と連携し、表現・鑑賞の場を提供するとともに、新たな表現者の育成を図る。

問 令和8年度は、新たにどのような取組を行うのか。また、事業内容をどのように発信していくのか。

答 市民や県内外から参加者を募り、アーティストと共に作品を創り上げる交流型ワークショップを新たに実施する。ここでしか体験できないアートを通じて、鯖江の魅力を発信し、交流人口の増加や定住促進につなげたい。広報紙や市ホームページ、公式LINEによる周知に加え、SNSを戦略的に活用し、参加者自身が情報発信の担い手となる広がりのある情報発信を進めていく。

【議案第3号】令和8年度鯖江市一般会計予算（鯖江つつじマラソン実行委員会負担金 650万円）

鯖江つつじマラソンの継続と今後の在り方

問 つつじマラソンについて、コース周辺の市民から道路が使えないなどの意見もある中、今後も現在の形態で継続していくのか。

答 つつじマラソンは、令和8年度で48回目を迎える半世紀近く続く本市を代表するスポーツ行事である。これまで、コース変更や警備体制の強化により、競技中のコース横断を可能にするなど、ランナーの安全確保と通行制限の緩和に努めてきた。今後も地域の声を聴きながら、同様の形で継続していきたい。

意見 大会を継続していく意義は大きいですが、近隣住民からの意見が毎年寄せられている。また、総合体育館や陸上競技場における参加選手の動線も悪く、体育館からスタート地点へ行くためには、コースを横断しなければならず、陸上競技場に入る通路も狭い。今後は従来どおりの運営にとどまらず、新しい視点を取り入れ、より良い大会へとブラッシュアップしていくことも検討すべき。

嚮陽会館複合交流施設整備特別委員会

【議案第3号】令和8年度鯖江市一般会計予算（複合交流施設費 12億2,739万円／公園整備事業費（単独）のうち工事請負費 1億円）

嚮陽会館整備事業における費用と価値の検証について

説明 複合交流施設費のうち工事請負費12億450万円は、令和8年度分の建築工事、電気設備工事、機械設備工事、外構工事など、工事進捗に応じた整備費である。また、委託料2,010万円は、建築事務所に工事監理業務を委託するための経費である。公園整備事業費（単独）の工事請負費1億円は、嚮陽会館整備に併せて実施する駐車場整備に係る令和8年度分の費用である。財源については、一般財源のほか、国の地域未来交付金、県のこどもの遊び場整備事業費補助金、各種事業債を活用する。

問 予算案が認められた場合の工事着工までの流れ、駐車場整備のスケジュールは。

答 4月上旬に入札公告、5月に入札を行い、6月定例会で工事請負契約議案が可決されれば、工事着工となる見込み。駐車場整備は令和8年度から9年度までの2か年で完了予定とし、工事期間中も嚮陽会館前の駐車場は半分程度利用できるよう運用する。ふれあい駐車場は出入口が1か所のため、短期間だが全面使用できない期間が生じる。

問 工事が3か年度にわたる中で、工事費の高騰について現時点での懸念材料はあるか。

答 原油価格の高騰や物価・人件費上昇などの影響は懸念されるが、工期延長により事業費へ影響が出ないよう、事業者や工事監理者と協議し、適切に対応していく。

問 屋上整備について、開館時間の制約やコスト面を考えると、西山公園や道の駅など既存施設を活用すればよいのでは。

答 屋上整備には、次の3つの意義がある。  
①嚮陽会館に新たな価値を創出すること  
②市民活動の広がりが期待できること  
③内外からの集客力向上につながる

問 屋上整備費約6,500万円に加え、維持管理や改修などのランニングコストが発生する中、屋上整備を見直すことで費用削減はできないのか。

答 屋上整備は基本計画・設計段階で市民との対話の中から提案されたものであり、市民の発案をできる限り取り入れたいとの考えによるもの。

問 屋上は将来的に必要となった段階で整備する選択肢もあるのではないかと。

答 屋上整備は約20年前から検討されてきた経緯があり、今回の整備のタイミングで屋上の魅力を発揮できる可能性を残したい。また、水害時の避難場所としての活用も想定している。

意見

・屋上を整備することで、休憩や待ち合わせ、交流の場として活用でき、親子連れの回遊性向上にもつながる可能性がある。こうした可能性を整備しないことで消してしまうのはどうか。

・嚮陽会館複合交流施設整備において、当初から改修と新築を含めた全体事業費の比較や、様々な選択肢を示した議論が不足していたのではないかと。

・屋上を含めた施設全体の魅力ある運営や使い方を検討するとともに、今後も継続したコストダウンの努力を強く要望する。36億円を超える大規模事業であるからこそ、完成後も工夫を重ね、高い買い物だとならないよう、施設に十分な価値を持たせていく努力をこれからしっかりとしてほしい。

